

学体連会報

発行日 平成 4 年 3 月 1 0 日
 東京都渋谷区代々木神園町 3 番 1 号
 国立オリンピック記念青少年総合センター内
 財団法人 日本学校体育研究連合会
 電 話 (03) 3465-3954
 F A X (03) 3465-7464
 発 行 者 大 石 三 四 郎



学体連の今後の方向

会 長 大 石 三 四 郎

学体連は創設以来三十年も経てくると、創設当時の事情も薄れ、その目的も変化してきている。昨年はソ連の共産党も消えソ連邦そのものが解体したりして、米ソ対立の世界の政治情勢も大きく変わり、日本国内の各方面、分野の情勢も大きく揺れ、嵐の前の静けさという感じである。やがて学校体育の分野にも何等かの突風が巻起こり、強い影響が現れてくることが予想される。台風か竜巻か、それとも寒波か、どのようになっていくのであろうか。おそらく世界情勢はアメリカと日本それに欧州や東南アジアの国々がからみあって、今後の地球規模の民族の平安ということを中心として、今までの人類の歴史に無いような価値観から生まれる多くのシステムが次からつぎへとあらわれてくるに相違ない。そして適者生存の法則が働いて最良なるものが生きのこっていくのではないだろうか。

人間の組織にしても、今後の情報機器の発達によってどのように変わっていくのであろうか。夜など静かに寝ながら、じっと考えると、空おそろしくなることが度々ある。

日本が敗戦した直後のことを思い出してみると大変だったなあ、と。とにかく月給をもらって、石川県金沢市の香林坊の野天の市場に行くと、月給の金で干し柿四個しか買えない。本当にこれから日本はどうなっていくのであろうかと、そしてアメリカの兵隊が貴族のようにみえた。私が小学校の昭和 1、2、3、4 年頃の日本も大変な時代だった。大学は出たけれど就職ができない。失業者が巷にあふれていた。このときも世の中はどうなるのであろうかと子供心に心配したものである。その後日本は戦争に

おおいしさんろう 1916年横浜生まれ。
 東文理大卒。筑波大名誉教授。国立特殊教育総合研究所名誉研究員。勲二等瑞宝章受賞。特殊法人日本体育・学校健康センター理事。全国大学サッカー連合副会長。
 (財)余暇開発センター顧問。(社)全国大学体育連合副会長。二宮金次郎のミラクル経営再建術(同文書院)。

突入しそして敗戦した。そして一月働いて柿四個。とても理屈では生きて行ける状態ではなかったのである。それでも私はその後 50 年も生きている。

この学体連にしても 30 年前の創設期にはいろいろの問題があったようである。財務的にはここでは触れないが政治的には潜在的に当時の世界状況に対応して動いていたのである。したがって、前記のソ連邦の解体は、これからの日本の国内の総べての分野にもその影響がでてくるものとおもわれる。

長くこの学体連にかかわってきた人なら、その間の事情がお分かり頂けるものと思う。どうかこれからの変化に対しては、無理なく自然に会員の皆様の御意向を体して進めていきたいと念じている。ただここで私からお願ひしたいことは、運営資金についてであるが、本年は各県にお送りする補助金は大分県の役員会で御説明いたしましたように中止させていただく。もちろん今後も努力し募金をつづける。どうかこの会報の終わりの広告を御覧くださって私の意味するところを、会員諸賢の御推理と御好意を頂く以外に金を手にする方法がないのである。*

以上で原稿切れのところ、2月8日の理事会で不足分を書き足せというので補足する。募金は順調に進んでいる。それに各県の企画する研究会には、審査の上助成を強化したい。9日の午前1時のアルペールビルの冬季五輪の開幕の様子をテレビでみた。そして私も若返って日本の青少年の栄養を科学的に研究して体力の向上に資するように頑張らなければならぬと決心した。それに教え子の小野清子現参議院議員が6年後の長野冬季五輪の担当大臣になった夢までみる始末。先生馬鹿、何卒御寛容下さい。



理事長 浅田 隆夫

'91年度 学校体育の課題

I. 新学習指導要領改訂とかかわって

本年度の学校体育研究は、新学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、生涯スポーツに向けて「生徒自らが進んで運動に親しむ態度や能力を身につけ、心身を鍛えることができるよう」にすることをねらいとし、このねらいを具体化するために、「生徒の心身の発達の特性と運動の特性との関連を考慮して」運動を選択し、配列するというカリキュラムの作成を検討・実施することが主要な課題となっている。

すなわち、新要領改訂の目的は、スポーツは自分にとって生活の必須事項としてなくてはならないものであり、もし、生活がそう（必須事項）になっていない場合は、そのような状況になるように主体的に環境にはたらきかけていく力を育てていくことにおかれている。つまり、学校時代にスポーツが好きになり、スポーツを楽しむための知恵と仕方を身につけさせることなのである。

したがって、年間計画はゆとりある豊かなスポーツ生活とはどのような「目的や計画、問題や課題の発見・解決、評価」を設定したらよいかということをも企図として構成することになる。一般的には、①自発学習ができるように大きな単元にする ②熱中して楽しめる種目を選ぶ ③単元を児童・生徒の実際のスポーツ生活に合わせる……などに留意することになろう。

具体的には、小学校では学年ごとに重点種目を決め、年間計画全体を大きな単元と小さな副単元にしたり、また、学習の発展を期待しない経験単元にしたりなど単元構成に変化をもたせるようにすることである。中・高校では、選択制を採用、特に、中学一年次では領域内の選択制を考慮し、大きな単元で選択可能性を導入した豊かなスポーツ生活が経験できるようにする。また、男女共修や学年の枠を取り払った学級編成をしたりなど、生徒のスポーツ生活の現実に合わせていく。さらには、小・中・高校を通じていえることは、体育的行事やクラブ・部活動などを年間計画の中に統合したり、学校・地

あさだたかお 1919年、兵庫県生。東京文理科大学教育学科卒・同研究科修。東京教育大学教授、筑波大学教授、同体育センター長、同学校教育部長。1983年退官後、目白学園総合図書館長、現在 同女子教育研究所所長。筑波大学名誉教授、教育学博士。

域の文化的特性を考慮したりなど、学習の深まりと合わせて生涯スポーツとの関連のもとに体系化を計るようにすることである。

このような年間計画が全面的に実施されるのは、小学校では'92年度、中学校では'93年度、高等学校では'94年度から学年進行で実施される見通しであり、これをいかに実行し学習効果を高めるかはいつに教師の専門性にかかっているといえよう。

また、文部省では社会の週休2日制の普及に対応した新しい学校運営のあり方について実証的な資料を得るため全国9都県で68校の調査研究協力校を設け、これらの研究成果を'91年度末までに報告書としてまとめることになった。思うに、学校週休2日制の問題は家庭週休2日制の実施が先決であり、結論的には、この問題はすべての省庁が総合政策の下に一致協力して取り組むべき問題であり、学校よりも家庭、できる子どもよりもできない子どもの受け皿をどうするのかを考えることから始めるべきであろう。

II. 現場の教育・研究とかかわって

1

'91年に報告のあった都道府県の体育研究校は、小学校59校、中学校37校、高校8校であった('90年度分)。

小学校のテーマは「体力づくりや体力向上にねらいをおくもの」47%、「学ぶ楽しみや達成の喜び、満足感を味わわせようとするもの」44%、「意欲や気力を培おうとするもの」44%、「個人差に応じて一人ひとりを伸ばすことにねらいをおくもの」25%、「よい授業に向けて学習方法や指導法の改善を意図するもの」27%、その他、「たくましい実践力」「めあてをもって課題に挑戦していく自己教育力」「仲間との協力性」「おもいやりや豊かな心」にねらいをおくものがそれぞれ8%となっている。そして、これらのねらいは、単一なものが12%、複合的なものが36%、3つ以上のねらいが重畳しているも

の53%の割合となっている。

中学校では、「主体性や自主性、積極性の養成にねらいをおくもの」57%、「効果的な学習方法や指導法の改善を意図するもの」と「体力づくりに関するもの」がともに35%、「喜びや感動を培おうとするもの」及び「個性の伸長や適時性にねらいをおくもの」がともに24%、「意欲ややる気を育てようとするもの」22%、「たくましい実践力」や「自己教育力」「心と体の調和的発達」にねらいをおくものが、それぞれ14%となっている。そして、これらのねらいが単一的なもの14%、複合的なもの35%、重畳しているもの51%の割合となっている。

高校は報告された学校数が少ない(8校)ので、テーマだけを列挙すると、「自発性や積極性を培おうとするもの」「効果的指導法の改善」「生涯スポーツや生活スポーツを志向するもの」「教材の選択制にねらいをおくもの」などであり、これらのねらいが複合的なものが50%以上となっている。

なお、本年度の特徴は、小・中・高校とも多目的なテーマが掲げられており、それだけに内容の深まりが果してどの程度あったかに危惧の念が抱かれるところである。

2

現場から寄せられるこのような教師の報告を散見すると、体育科のねらいや研究は総じて今日の高情報化社会を生き抜くたくましく体力の向上や健康の増進にねらいがおかれているといえよう。

思うに、体育という教科の独自性は、体力や健康の問題もさることながら(この領域を研究対象とする専門科学は体力学や健康学でもある)、むしろ、生涯スポーツの教育にあるといつてよからう。いうまでもなく、生涯スポーツ教育は、生涯を通じて人間をスポーツ文化と関わらせることの中で人間をその「個」に即してたくましく、かつ、自主性に富んだ豊かな人間性を育てていくところにある。

この意味からすれば、教科のねらいが、例えば、国語科は国語文化、数学科は数学文化……の伝承と発展にあると同じく体育科教育のねらいは広義のスポーツ(体操は自己一体を克服していくことに向けられた身体運動、ダンスは世界の創造の表現に向けられた身体運動、スポーツは主として競争による技術一様式に向けられた身体運動)文化の伝承と発展におかれるべきだといえよう。スポーツ文化を理解するためには、人間がこれまでどんな歴史・社会の中で、どのようなスポーツ文化(スポーツ種目の様

式やそれぞれのルールや技術、実行者の行為、その体験を認識論的に記述した文献や作品、用具や施設、スポーツ文化について第三者が創作した作品など)と関わり、いかなる文化を創造してきたかを了解的に明らかにしていくこと、このためには、まずスポーツ人といわれる人達の足跡を辿り、そこでの人間的教育的価値の高いドラマを探究し解していくことが必要である。

例えば、日本のマラソンの創成期に偉大な貢献をし、戦後は山田敬三や君原健二などを育てた金栗四三。君原は金栗について「ストックホルム、アントワープ、パリ―と出場、負けても負けても挫けない、はがゆいまでの馬鹿さ加減」とまで述懐している彼(金栗)のマラソン人生。また、昭和29年、ロンドンで行なわれた世界選手権大会にシングルスと団体戦で優勝、その後、8回連続出場し、シングルス・ダブルス・団体合わせて12個の世界タイトルを獲得、前人未踏の大記録を樹立、近代卓球を編み出した荻村伊智朗。その他、日本スキー界の草分け的存在である父、六合雄氏に幼児からスキーの天才教育を受け、昭和31年の冬季五輪で日本人として初の銀メダルを獲得した猪谷千春。

さらには、昭和24年全米選手権大会で数々の世界記録を樹立、戦後の虚脱状態にあった国民に夢と希望を與え、「フジヤマのトビウオ」の異名をとった古橋広之進。

早稲田実業在学中甲子園に4回出場、うち32年春優勝、34年ジャイアンツに入団、打者として荒川コーチの指導のもと「一本足打法」でホームラン38本、後数々のホームランの世界記録を樹立、通算868本と更新した王貞治……などあげればきりがなく、このようなスポーツ人の生きた生活のドラマを体育教師は、自らのスポーツ実践の体験と合わせて了解しておくことが必要である。

なぜなら、教師のこのような体験があってはじめて、それを子どもに追体験させていく過程(授業)で、子どもは自らのプレイ・スポーツ生活とそれ(教師の体験)とを同調させることができるのであって、そこにこそ、彼等なりの知的興奮を抱くような授業が展開されると思うからである。

とにかく教師は、授業時に子どもにとって最も意義のある(スポーツとの)出合いをさせるべく、子ども一人ひとり(もちろん、家庭や地域社会とも)と緊密なリレーションを創出していかねばならないのである。筆者はかつて、体育の教師は、子どもの

生活に即して「スポーツするしかた」を指導していくために、技術指導もさることながら、指導技術ないし心理指導の必要なことを強調し、セラピストやカウンセラーといわれる能力こそ肝要であることを

訴えたことがある。

いま再び、スポーツカウンセラーとしての資質が、体育教師には希求されているのである。



常務理事 清水善之

第30回大会(大分県)「代表者会議」及び「理事・評議員会」議事録

平成3年度 都道府県代表者会議

日時 平成3年11月6日(水) 14:00~16:00
場所 大分市、西鉄グランドホテル、会議室

(議長) 浅田理事長、(司会) 神田、(記録) 松田

1. 大石会長あいさつ

お忙しい折、参集いただき、30回大会が盛大に開催され、大分県当局の方々にお礼申し上げますとともに、皆様のご協力に感謝する。立派な大会となることを期待する。

2. 浅田議長より

(1) 役員の紹介、(2) 資料の確認、(3) 常務理事の仕事(重田氏に代って、常務理事が分担して業務を行っている)、(4) 業務改善のための予備調査の結果説明(資料No.1~No.2 15、16頁参照)。

3. 議事

(1) 第31回、全国大会以降の開催地について

平成4年度(静岡)、5年度(山梨)、6年度(石川)までは決定している。7年度以降の開催地について地区は(別表の通り)決まっているが県が決まっていないのでブロックで話し合いたい。(開催地には150万円補助金を渡している)

(2) 学体連の象徴旗について

前回の北海道大会会議で、30回大分大会の記念事業として作成したらどうか、ということでご報告28号でお知らせした趣旨の通り、常務理事会で決定し作成した。今後活用されたい。

(3) 優良校、功労者の「研究実践・資料集」の作成について

昨年度まで表題が「業績目録」であったが、内容が「研究実践報告」であり、格調高い「功績内容」であることから、学体連の貴重な研究資料として、大切に長く保存していきたい。したがって

しみずよしゆき 1932年、山梨県生、山梨大学卒、区立中野一中教諭、区立戸塚一中、区立落合二中教頭、区立牛込一中教頭、区立戸塚一中校長を経て、現在区立久保中学校長、前都中学校保健体育研究会会長。

本年度より「研究実践・資料集」とした。

今まで、希望者のみ実費で希望申込み部数を作成していたが、来年度から無料にしてはどうか。

(4) 記念品について

常務理事会案として(3)の研究資料集を記念品として贈呈し、盾、メダルの代わりにしたい。会費の節約上からも、検討されたい(盾、メダルの代わりに植木を、という話題もあり検討された)。

(5) 県「学体連」事務連絡の在り方について

本部は年間計画に基づき、書類、会報などを各県に送付している。しかし、4月に会長交代で送り先が不明の県が多い。そのため会の運営に支障をきたしている。提案として、各県の学体研の事務連絡を県当局に置き、県より新会長に連絡する、という方法をとれないか検討してほしい。

(6) 「学体研」の組織の強化について

全国各ブロックの組織が機能するためには、先ず県段階で、小・中・高校が一体となった研究組織を確立することが基本である。県の組織、ブロックの組織をまとめることについて検討されたい。

(7) 理事・評議員会のもち方について

アンケートの項目4での中央研修会を研究集会和抱き合わせて出張扱いとする件、賛成68.7%である。この件について検討願いたい。

(8) 「研究会」について

(中学校、高校)は、7月6日、私立十文字高校で、マスケム・創作ダンスの実技研を実施、140名参加。(小学校)は8月1・2日、文京区立金富小学校で多種目研修、150名参加。(幼稚園)は8月5・6日、遊びと運動実技研、50名参加。今後は、全国的に連絡を密にして参加者をふやしたい。

(9) 分担金の値上げについて

現在の県の分担金は20数年前より、人数割で行い、2万円から6万円まで全く値上げしてない。近年、本会への寄付行為がにぶりがちとなり財政難である。すぐというのではないが値上げの方向で検討して欲しい。

(10) 分担金・補助金について

分担金は今すぐ値上するのではなく、補助金の有効な使いみちを考えていくことを現在は検討していきたい。業績を後世に残すためにも充実した研究・研修の実績を上げていきたい。

(11) その他(質問・意見など)

Q 理事・評議員会と代表者会議との関連は。

A 県のまとまった意見を、県の代表者会議を通じて理事・評議員会に生かしたい。

Q 学体連に副会長がいないのはどうしてか。

A 過去にはおかれていたが、現在はおかないで会は円滑に運営されている。

Q 学体連の組織強化策は、年2回の全国主管課長会に学体連から出席して要請し了解を得る。
・分担金は、小刻み値上げしてほしい。

意見。分担金を値上げしないで、補助金をしばらくやめ、記念品を出したらどうか。

平成3年度 理事・評議員会記録

日時 平成3年11月7日(木) 16:30~17:50

場所 大分市、市民ホール、会議室

(議長) 浅田理事長 (記録) 清水

△ 8月の理事・評議員会で、学体研の在り方について、アンケートをとることを了解していただいた。その結果がまとまったので、別紙の通り報告する(アンケート集計の結果を説明)。今後これを十分検討し活用していきたい。

△ 協議事項

〔第一号議案から、10号議案までの提案内容は、代表者会議と全く同じで、重複するので割愛する。〕

これから、各ブロックに分かれ、1~10までの提案内容を検討し、まとまったものをブロックの会長より発表していただきたい。

◎ブロックでの議案検討結果のまとめ

1. 北海道・東北ブロック……(北海道・石原)

○今後の全国大会の開催地について。

現在、対象となる青森県、秋田県、岩手県の主管課長会議で相談して決定していただく。

○記念品について。寄付を取ることが大変であることは十分承知の上で、続けて贈呈してほしい。

○優良校、功労者の研究資料集について。無料で配布してほしい。各県で一冊づつ買ってもよい。

○補助金について。現在各県に配当されているが本部の財政が立ち直るまで止め、余裕がでたらただく。補助金を資料集作成費に当て無料で配布するなど本部で検討されたい。

○分担金の値上げについて。値上げの場合は基準を明確にし、決定年度を先に延ばしてほしい。

2. 関東・甲信越ブロック……(千葉・梶原)

○今後の開催地について。関東と甲信との間にズレがあった。関東甲信全部合せて県名を示せ。平成11年度の開催地は、山梨大会の時決定する。

○記念品について。補助金の額を減らし、記念品資料集を無料で配布してほしい。

○分担金について。従来の2万円~6万円のランクをなくして、すべて2万円に対応したらどうか。

3. 東海・北陸ブロック……(静岡・田神)

○記念品について。資料集を記念品とすることには消極的賛成(記念品に相応しいものにする)。

○組織の強化について。小・中・高校の連携のとれない県があり、各県内で連合組織をつくること。

○分担金について。人口比か学校数比か、適正な基準で、本部に一任する。

○補助金について。従来通り、学体連が財団組織なので補助金を出す制約があるなら現状でよい。

4. 近畿ブロック……(大阪・林田)

○全国大会の開催地について。すでに内定しているが、本日欠席なので、発表は次回とする。

○記念品について。校長室等に飾るので、今まで通りとする。資料集は実費購入してよい。

○組織の強化について。ブロックとして大会はやっていないが、校種別にはやっている。

○分担金について。値上げもやむを得ないだろう。

○補助金について。地方と連合会を結ぶ唯一のものだから、無しとすることは反対である。

5. 中国・四国ブロック……(山口・藤野)

○今後の大会開催地について。H7年か10年か主管課長会で相談。静岡大会までに決定したい。

○分担金について。値上げもやむを得ないか。

○補助金について。値下げはどうか。

○組織の強化について。小中高の連携を進めたい。

6. 九州ブロック……(大分・村上)

○記念品について。従来通りしてほしい。

○各県への連絡について。主管課長会の了承をもらい、提案の方向で努力する。
○組織の強化について。組織が充実している。
○分担金について。少々の値上げもやむをえない。九州は離島、小規模校が多いので考慮されたい。
議長 発表内容は本部で検討し、各県に連絡する。

会長 あいさつ 大分大会は、よくまとまりすばらしい大会。財政的には、極めて大変で、今集めている。本来なら分担金はもらわないで補助金を出したい。資料集を無料とし、旅費も出したいところである。現在は、すべてにご無理を願っている。
議長 以上をもって、理事・評議員会を終ります。

平成3年度 理事・評議員会議のまとめ
(11月7日：各ブロック会議のまとめ—松田智男)

| | 大会予定 | 記念品 | 研究資料 | 分担金 | 補助金 | 組織強化 |
|-----------|--------------------------------|------------|---------------|------------------------|----------------|----------------------------|
| 北海道 東北 | 対象：岩手・秋田・青森 主管課長会議で相談し決定 | 続行 | 無料 各県で一冊負担 | 現状通り 値上げする場合は基準を明確に | 一時保留 資料集に回す | |
| 関東 甲信 | H5山梨大会の時に具体的に話し合う | 続行 無料配布 | 続行 無料配布 | 各県同額 | 金額減少 | 県単位で努力 |
| 東海 北陸 | | 消極的に賛成 | 記念品に相当したものにする | 人口比、学校比等基準を明確に本部一任 | 続行 | 連合組織をつくる |
| 近畿 | 内定している該当県欠席なので次回発表 | 続行 | 実費購入 | 値上げ仕方ない | 検討の必要あり | 学校種別にやっている |
| 中国 四国 | H7年かH10年か主管課長会議で相談 H4の静岡大会迄に決定 | 従来通り 続行 | | 値上げやむをえない | 値下げ | 学校種別にやっている 小中高は現状では無理 |
| 九州 | | 従来通り 続行 | | 値上げやむをえない 基準を明確にする | | ブロックが一枚岩となって協力している 問題ない |

分科会会場 参観記

〈理事長 浅田隆夫 内藤澄子〉
第1・2・15分科会

第30回全国学校体育研究大会、大分大会が南国の青空と紅葉の映える美しい大分市で開催されました。

図らずも参加の機会を得た3日間は感謝と感動の満足感でいっぱいでした。

幼児、児童、生徒が生涯を通じて運動に親しみ、明るく豊かで、活力に満ちた生活を過せるよう友だちとかかわりの中で、自分なりの思いを出し合ったり、友だちの考えを受け入れたりしながら、体を十分に動かして、遊びの楽しさを味わっていく環境の工夫を幼児と教師が同行しながら創りあげる喜び。第1分科会は前夜半降り出した雨の活動開始時には快晴となり、砂の園庭の所々には水溜まりが残っていたが登園した78名の幼児は運動着に着替え素足で戸外へ駆け出していくたくましい姿に感動する。

全園児が「好きな遊びをしよう」の課題にむかって主体的に取り組む構えが自然な姿である。遊びの環境も、幼児の身体諸機能の調和的発達を促す配慮で、固定遊具（ブランコ・ウエイブジム・登り棒・鉄棒）、移動遊具（巧技台・平均台・跳び箱・マット・リール・綱・フープ・ジャンピング・竹馬・縄）の組み合わせが、幼児自らが「自分なりの目あて」をもって挑戦しようとする構えと意欲を引き出すための静・動の運動がバランスよく配慮されていた。
○ 友だちや教師と一緒に場作りをする
○ いろいろな場において挑戦する
○ 友だち同士で、励まし合い、認めあう会話
○ 遊具や遊びへの安全に配慮する係（役割）等、お互いに思いあう心や遊びを楽しく進めていく楽しさに充実感や達成感で参観者を意識しない個々の活動の展開でもあった。ぎこちない動きでやっ

征服したリール乗りに胸はずませたA子の笑顔…。全園児の動きをみて、いい足、いい腰をしている。このしなやかな体を十分動かして遊ぶ姿は、まさに本研究大会の成果である。万感の思いを込めて拍手！

参加して強く感じたことは、この子供たちが21世紀を迎えた時、鍛えた足で、心で、別府国際マソンコースを走る姿も速くないと勇気づけられた。

昨日よりは今日、今日よりは明日へ と一人一人に無理なく、無駄なく育つようにと全職員の願いを込めた個人記録から研究への取り組みの深さを感じました。金池幼稚園の皆さんはじめ、大分・別府市の皆さん、幸せな一日をありがとう。（内藤 記）

〈常務理事 岡野伊与次〉

第8分科会 大分市立東陽中学校 校長 猪俣哲夫
研究主題「運動に親しみ、進んで体育学習に取り組む生徒の育成」を取り上げ、自発的な自己教育力を身につけさせようとする意図が充分にうかがえる授業展開であった。参加者は150名。特にこの授業研究からは、学習の課題を明確にし、1人ひとりの学習の課題の一覧表を作成し取り組んでいる姿勢が見受けられた。授業は4クラス、体育館と校庭で実施され、その一つの特徴としては、男子教諭における「なぎなた」指導であった。礼に始まり礼で終る練習風景には感銘を覚えた。

〈常務理事 金森 久〉

第4分科会 大分市立大在小学校 校長 内田角一
明治7年創立の伝統校で、とくに、県単位以上の大会における体育の研究発表は昭和2年以降、本大会の発表が40回目である（全国表彰は3回）。

業間体育は学年自慢の運動として各学年内容の異なる運動を行った。体力づくりの強化をねらいとし、さらに、体育好きにするため工夫された内容であった。とくに、5年生のなわとびは高度で驚嘆した。

6年生のマット運動は前方倒立回転などの運動を各自が3～4組み合せ、グループ学習を行った。男女39名の連続技のすばらしさに感銘した。

次いで、長浜小学校（大分市立）と聾学校（県立）を見学させて頂いた。長浜小学校では、運動場で3年生のポートボール、体育館では5年生のマット運動が行われていた。いずれも、児童各自がそれぞれ「めあて」をもって練習方法や場の工夫を考え、また、資料の活用もよく工夫し、いきいきとした子どもの動きがみられた。

聾学校では、高等部1・2・3年によるバドミントンの授業が展開されていた。筆者は、特に学校内の諸施設を見学させて頂いた。寮が完備していることや技術を身につけさせるための器材の導入・工夫などに努力が伺われた。（浅田 記）

第3分科会 大分市立川添小学校 校長 熊田利人
研究主題「一人ひとりが意欲的に取り組み、自らの力を伸ばす体育学習の在り方」を掲げた。参加者は311名。この学校の児童は卒業後、左記の東陽中に入学するので、小中一貫の指導体制になっているので、その効果は著しいものがあると思われる。

授業の特質としては、児童一人ひとりが課題を持ち、常に主体的な行動をしていることであった。主として、音楽リズムによる行動をとり、規律正しい姿勢が伺えた。ミニバスケ（6年）ミニサッカー（4年）等の技能的な動きはすばらしいものがあり、発達段階に即した技能習得の手立てが工夫されていた。また、学校を取り巻く環境もすばらしかった。

第10分科会 大分豊府高等学校 校長 須股博信
創立6年目の大規模校で進学の実績も向上している高校である。体育施設はサッカーとラグビーが別々に学習でき、また、体育館のほかに卓球とダンスが行えるなど立派な体育学習環境をそなえている。

選択制授業を目指して体育科教諭が調査研究を重ねてきた。2年生はラグビー、サッカー、バドミントン、卓球、ダンスの5講座で、各種目とも22時間の指導計画により学習させていた。前期はバレー、ハンド、ソフト、軟庭、ダンスである。「選択授業学習ノート」を活用し、生徒のための指導に意欲的に取り組んでいる先生方の熱意が伝わってきた。

<常務理事 松田 智男>

第5分科会 別府市立大平山小学校

校長 片岡精一郎 参加者 約150名

研究主題「力をあわせ、意欲的に体力づくりに取り組む子どもの育成」を目標に、2年生の基本の運動、4・5年生の器械運動、6年生のボール運動の授業を公開する。教育目標の一つに「ねばり強くきたえる」とあるが、生徒たちはグループ毎に力をあわせ、根気よく課題に挑戦し、速い動きで真剣に取り組んでいる姿が印象的でした。また、参加した多くの先生方はビデオやカメラに授業の展開をおさめたり、几帳面にメモをとったりし、熱心に研究しているのが目についていた。

<常務理事 神田 俊郎>

第7分科会 大分市立上野ヶ丘中学校 校長 御沓義則。研究主題「自ら運動に親しみ、課題解決に取り組む体育学習をめざして」を掲げ、研究過程では、新指導要領に示されている4つの項目を研究の基調において進め、その中で特に「自己教育力の育成」を図るための、授業を通しての研究である。参加者230名。公開授業は、大分市立王子中学2年女子「ダンス」軸丸秀樹教諭指導によるものと、上野ヶ丘中学校2年男子「短距離走・リレー」坂井敬治教諭指導及び同3年男子「バスケットボール」瀬山英則教諭指導のそれぞれの授業であったが、どの授業も、生徒ひとりひとりが課題をもち、それに向かって意欲的に取り組む授業の展開であり、参観者を引きつけ、盛り上がった雰囲気であった。

第12分科会 別府市立別府商業高等学校

校長 山本忠夫 参加者 約110名

昭和32年に開校した県下唯一の市立高校、商業科と情報処理科の2コースがある。生徒数約900名。広い敷地に恵まれた体育施設をもつ学校です。

研究主題「生涯体育に結びつく体育授業のあり方を求めて」を目標に、女子生徒のバトン・トワリングとソフトボールの授業を公開する。授業は両種目ともグループ学習が進められ、生徒たちは自主的、かつ相互に助けあいながら活動した。特に、教育方針の自律・実践・創造にふさわしく、生徒一人一人が生き生きと積極的に、楽しく参加している姿が目についていた。

第11分科会 大分県立大分女子高等学校 校長

岩田満之。研究主題「女子高校における武道の実践について」。本校は「明・優・正・強」を校訓として女子教育に取り組んでおり、教育方針として、『明るく、優しく、正しく、強く』生きる人間づくり。また、『きびしさ』と『愛情』のある学校づくりを掲げ、その達成をめざして、現在の生徒に不足している『正しく強く』『節度』などの資質養成のため、『柔道・なぎなた』の授業を通して、技能の習得だけでなく、『思いやりの心』『礼儀正しさ』を身につけることを実践している。

公開授業は、第2年「柔道」森 悦郎教諭指導と体育科コース2年、3年の91名による「なぎなた」芝原由美教諭指導のものである。学習のねらいが生徒一人ひとりに浸透していて、熱気があり、すがすがしさを感ぜさせられた（参加者90名）。

第30回全国学校体育研究大会 大分大会を終えて

研究主題「生涯スポーツを指向し、豊かな人間性を育成する学校体育の推進をめざして」



大分県実行委員会会長
大分市立坂ノ市中学校長

是 久 隆 一

これひさりゅういち 1933年大分県生、大分大学学芸学部卒、大分市立中学校教諭、県教育委員会指導主事、大分市教育委員会体育保健課長を経て、現在大分市立坂ノ市中学校長、大分県中学校体育研究会、中学校体育連盟会長。

ました。

本大会を開催するにあたりまして、文部省をはじめ日本学校体育研究連合会、大分県教育委員会、大分市、別府市教育委員会の絶大なご支援、ご指導い

第30回全国学校体育研究大会大分大会は、去る平成3年11月7日8日の両日、大分市、別府市において5校種13分科会場で全国から約2,300余名の学校体育関係者をお迎えして盛大に開催することができ

たきましたことをお礼申し上げます。

本大会は、今年で30回という節目の大会にあたり本県開催は初めてのことであり、緊張した雰囲気の中で準備をすすめてまいりました。本県は小学校、中学校、高等学校で組織した学校体育研究会があり、昭和37年から九州各県輪番で開催されております九州地区学校体育研究協議大会が、丁度本県開催の年にあたりますことから併せての大会となった次第です。本大会は、小・中・高等学校に加えまして幼稚園、障害児教育諸学校にも参加をお願いし、千本事務局長を中心に実行委員会を組織いたしました。機能する組織をどう整えるかという点で、①開会式を始め全体に関する部門 ②分科会における体育学習に関する部門 ③分科会の運営に関する部門と大きく三つの組織を組み合せて進めました。

特に、②の体育学習の部門では、手探りではありませんが新学習指導要領の主旨をふまえ、子ども達が将来の日常生活にスポーツをどうとり入れていくか、そのため現在の学校体育はどんな考え方で体育学習に取り組めばよいか、を課題として各分科会に臨みました。

第30回大会の開会式は、文部省大臣官房審議官下宮進先生、日本学校体育研究連合会会長大石三四郎先生のごあいさつを始め、ご来賓のお祝いのご言葉をいただきました。引き続き「体育科教育の新しい方向」と題して文部省体育官笠原一也先生が体育の現状、新学習指導要領の主旨、今後の方向等について解説されました。次にシンポジウムが行われました。主題は「学校体育の新しい役割と課題」であり、司会者に筑波大学教授の大木昭一郎先生をお迎えして、予定の2時間を超える熱心なご討議をいただき

ました。

岡山大学教授の大橋美勝先生から学校五日制に向けて「学校、社会連携の必要性」についてご指導をいただき、福岡大学教授の田口正公先生から「体力づくりの観点から考えた学校体育の新しい役割について」、武蔵大学助手山口香先生から「体育部活動の問題点」についてのご指導をいただき、大分県立雄城台高等学校長諸藤良行先生から「運動部指導者、一校一スポーツ」のご指導、提言がありました。司会者の大木先生が「生涯体育の原点は学校体育にある」というまとめをいただきました。いずれのご発言も新しい時代を迎えるための学校体育のあるべき姿、生涯スポーツを指向した指導者のあり方という現在の学校体育に課せられた問題点を鋭く指摘され、参会の学校体育関係者が意を新たにされた有意義なシンポジウムでありました。

なお、分科会の様子は報告書にまとめましたので後日、ご高覧賜りたいと存じます。

おわりになりましたが、全国学校体育研究大会のシンボル旗が制定され、第30回大分大会の開会式場に掲げられる栄に浴したことは感激であります。

また、九州地区学校体育研究協議会および、前年度開催された北海道実行委員会事務局の皆様には暖かいご助言ご指導を賜りましたことに、心からお礼を申し上げます。

おわりになりましたが、全国各地から多数の学校体育の先生方のご来県誠にありがとうございました。大分県実行委員会一同感謝申し上げます。

平成四年度静岡大会のご成功をご祈念申し上げ、お礼のことばといたします。



次期大会 静岡県から

静岡県準備委員会会長

田 神 耕 一

第31回全国学校体育研究大会が、平成4年度静岡県で開催されるに当りご挨拶申し上げます。

この研究大会も30回の節目の大会を大分県で開催され、多数の参加者を得て盛大に行われましたことに、まずもって心から敬意を表します。

さて、次期大会が静岡県で開催と決定しました昨年3月から、文部省及び日本学校体育研究連合会の

たがみこういち 1934年静岡県生まれ。日本体育大学体育学部卒、県立松崎高土肥分校教諭、裾野高・沼津工高・草薙総合運動場・県教育委員会体育保健課・磐田商高教頭・川根高校長・富士宮北高校長

ご指導を仰ぎ、本県の学校体育関係者が全力を傾注し、全国からご参加頂く関係者に満足して頂ける大会にすべく鋭意努力いたしております。

静岡大会の研究につきましては、研究の方向として、近年の社会環境の変化がますます加速されることを予想し、来るべき21世紀の変化に主体的に対応できる能力を持ち、心身ともに豊かで逞しく生きて

いける幼児・児童・生徒を育成することは学校教育の課題であり、とりわけ、学校体育に寄せる期待は大きい。この認識の上に立って、新学習指導要領の主旨を踏まえ、今後予想される社会の著しい変化とそれに伴う幼児・児童・生徒の生活や意識変容に配慮しつつ、生涯体育・スポーツの基礎を培い、逞しい心身の育成を図ることを基本としました。

研究にあたっては、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特殊教育諸学校における発達段階と個に応じた指導のあり方を求め、今後の学校体育の充実・発展を図ることとして、研究主題を次のように定めました。

「生涯体育・スポーツの基礎を培い、心身ともに健康で活力に満ちた幼児・児童・生徒を育成する学校体育の在り方」とし、この研究主題の具現化を目指し、基本的なおさえとして、「運動することの楽しさ、喜び」「発達段階を踏まえた指導」「個に応じた指導」をあげ、幼稚園では「環境設定と援助」、小学校では「個を伸ばす場づくり」、中・高等学校では「選択制の授業」、特殊教育諸学校では「能力差に応じた指導」等を中心に研究大会を進めたいと考えています。

研究大会は平成4年11月5日(木)・6日(金)の両日開催いたします。全体会は5日に静岡市民文化会館で行い、分科会は6日に、静岡市・清水市・蒲原町の15分科会場で実施いたします。

なお、全体会の内容と分科会の内容が発展的つながりをもつよう、全体会の内容について、文部省及び日本学校体育研究連合会事務局のご指導をお願い申し上げます。

この時期は富士山の非常に美しい季節です。学校体育関係者の多数の御来静を心からお待ち申し上げます。

静岡大会の開催にあたりましてご指導賜っております文部省、日本学校体育研究連合会事務局に心から厚くお礼申し上げますとともに、昨年開催されました大分大会事務局の皆様には、大会の企画立案・運営にかんする細部にわたってのご教示を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

終りに、第31回全国学校体育研究大会を成功させるために、開催県として私たちは一致協力して、一生懸命努力致す所存であります。全国の関係各位のご支援とご協力を賜りますよう切にお願い申し上げます。開催県からのご挨拶とさせていただきます。

*****事務局だより*****

1 平成3年度 常務理事会報告

常務理事 神田 俊 郎



1930年福岡県生 福岡第一師範学校本科卒。台東区立今戸中、三鷹市立第四中教諭、三鷹市立第三、第二中教頭 三鷹市立第七、三鷹市立第一中学校校長を最後に平成二年三月退職、現在、三鷹市教育センターに勤務。
 ○東京都中学校体育連盟、専門部委員研究部副理事長、同副会長を歴任。
 ○東京都中学校保健体育研究会、研究部長、同副会長、会長を歴任。
 ○台東区・三鷹市社会体育指導員・現在、三鷹市スポーツ振興審議会会長。

平成3年度・常務理事会(第1回~第10回)別に臨時1回の日程と審議事項の概要を示すと、次の通りである。

| 回数 開催月日 | 審 議 項 目 |
|----------------|---|
| 第 1 回 4月10日 | 1. 季刊「学体連」春号、会報(1991)号の編集について 2. 季刊「学体連」夏号以降の編集担当者割り当てについて 3. 本年度講習会の実施計画について 4. 学体連(象徴旗)の採用決定と、制定について |

- 6. 優良校・功労者の選考依頼手続きについて
 - 7. 事務局の事務移行の完了は、前年度の書類整理について
 - 8. 事務局室内の整備と物品購入について
- ※ 審議事項1.については、組織の強化、各県との緊密な連携を取る意味で、会報発行事業を充実させる提案が理事長よりあり、年4回、春号、夏号、秋号、冬号を特集号として、発行していくことが決定される。

- 第 2 回
3月1日
- 1. 季刊「学体連」の年4回発行の保留について(財政の見通しが立たない)
 - 2. 講習会のチラシ原稿提出について
 ○幼稚園(菊池) ○小学校(藤崎)
 ○中・高校(清水・松田)
 ○特 殊(岡野)
 各講習会は()内の常務理事が担当し、プログラムの内容と講師の選定についてはよく吟味して決定すること
 - 3. 平成2年度・会計報告案について
 - 4. 平成3年度・予算報告案について
 - 5. 今後の経理上の見通しについて
 - 6. 平成2年度・事業報告案について
 - 7. 全国理事・評議員会の日程について
 - 8. 優良校・功労者の選考依頼と手続き
 - 9. 平成3年度役員選出依頼と手続き
 - 10. 文部省へ提出書類の作成について
 - 11. 事務局室内の整備と物品購入の件
 - 12. 学体連象徴旗の発注について
- ※ 上記7.8.9.の項目については、早急に作業日程を組み、書類発送を完了させること。

- 第 3 回
6月3日
- 1. 平成3年度・理事・評議員の選出状況について
 - 2. 文部省への提出書類の作成について
 ※ 事務報告(神田)会計報告(金森)持ち回り理事会について(浅田)
 - 3. 優良校・功労者の選考・手続き状況
 ※ 選考・申請に必要な書類は、各都道府県へ発送完了。
 ※ 中央審査委員会のメンバーは、関東近県を中心に、昨年に準じ決定。
 - 4. 経理上の見通しについて
 ※ 見通しは大変きびしい状況にある。きりつめて予算案を作成していく方針である。
 ※ 経理内容が苦しいので「各都道府県」への助成金を一時停止の方向で検討してみてもとの意見があるが、平成3年度は、各県の予算案もできているので、従来通りとしては、
 但し、県単独申請の研究助成金については、暫くの間遠慮して頂く方針でいく。

- 第 4 回
7月1日
- 1. 平成3年度・評議員・理事の選出について
 ○各県決定したので、早速名簿を作成する。
 - 2. 平成3年度第1回(持ち回り)理事会の報告
 ○理事会資料26通郵送し、26通承認を受ける。
 - 3. 平成2年度事業報告・会計報告を文部省へ提出する。
 ○持ち回り理事会を開いた理由書を文部省へ提出する。全国大会で理事会を開催する旨を文部省に報告する。
 - 4. 体育優良校・功労者の選考準備状況について
 締切り6月30日、推薦委員会メンバーの提出は順調であるが、推薦報告書の提出は遅れている。
 - 5. 平成5年全国大会開催候補県・山梨県については、資料を揃え前向きに折衝していく。
 - 6. 実技講習会の準備状況について
 ○(幼稚園)要項完成、部会を7月8日に持ち、実施に向けて検討する。
 ○(小学校)各県へは発送済み、都内の学校へは本日発送する。個人申込みでも要項を送る。
 ○(中・高校)参加予定数140名、予算13万円(うち補助5万円)
 ○(特殊)謝金7万円、要項の配布方法を検討中。
 - 7. 水野スポーツ振興会から補助金受領。
 ○100万円小切手で受領する。
 - 8. 第30回全国大分大会の要項配布について
 - 9. 学体連象徴旗を完成する。(保管・使用について申し合せ事項を確認する。
- 第 5 回
9月6日
- 1. 平成3年度 第1回理事会の持ち方について
 - 2. 平成3年度 第1回評議員会の持ち方について
 - 3. 文部省への平成2年度提出書類に関わる文部省の意向について
 - 4. 第30回全国大会への準備状況の確認

○航空券・宿泊の手続きについて
 ○大会にむけて準備すべきものの確認
 ※表彰状(筒) ※記念品
 ※優良校・功労者の名簿
 ※代表者・理事・評議員会の資料
 ○大分大会における、常務理事の役割分担について
 ○大分県事務局へ連絡すべき事項の確認

第6回 10月7日
 1. 第30回大分大会準備状況の確認
 2. 出席常務理事の確認
 3. 日程についての確認
 4. 分科会会場視察割り当ての確認について
 5. 表彰状及び筒
 ○筒の必要数 優良校133、功労者154。
 ○発注数 優良校140、功労者160、計300。○表彰状が出来上がったら、神田、松田が校名と氏名を確認して大分へ送る。筒も同様に大分へ送る。
 6. 記念品について
 メダルと盾を年度会計から支出すると100万円赤字になる。記念品代は別途に集める。不足する場合には、寄附金と年度会計でまかなう。
 7. 優良校・功労者名簿、完成しているので更に誤字がないか点検する。
 8. 大会当日の役割分担についての確認
 ○代表者会議及び理事会・評議員会での役割
 ○開会式、表彰式での役割
 ○分科会場参観報告書について
 9. 平成6年全国大会石川県承諾について

臨時常務理事会 10月24日
 1. 全国大会、代表者会議、理事・評議員会の議題の整理について
 2. アンケート結果の検討とまとめ
 3. 分担金の拠出について
 4. 補助金・助成金についての意向について
 5. 理事・評議員会の持ち方についての各県の意向

第7回 12月19日
 1. 会報29号の編集について
 2. オリンピックセンター改築による事務局移転について
 3. 大分県全国大会事務局上京(文部省・学体連)へ挨拶
 4. 青少年育成国民会議へ学体連より岡野常務理事が出席する。

第8回 平成4年 1月9日
 1. 平成4年度の理事・評議員会の持ち方について
 2. 経理上の問題点と処理について
 3. 平成4年度前半の事業の持ち方について
 ※講習会 ※理事・評議員会について
 ※発刊物の広告料について ※研究資料集の平成4年度取り扱い方 ※平成4年度功労者の記念品について

第9回 平成4年 2月8日
 1. 第8回常務理事会会議録の報告
 2. 会報29号の進捗状況について
 3. 平成4年度業務内容の検討
 ○各都道府県との事務連絡の取り方
 ○関係書類の形式・事務手続き
 ○表彰に関するもの、中央審査の件
 ○各種調査の依頼・発送・回収・まとめの過程についての検討
 4. 平成4年度、講習会の計画と運営

第10回 予定 3月上旬
 <予想される主な議題>
 1. 第9回議事録の確認
 2. 会報29号(3月10日発行)の発送について
 3. 平成3年度の事業・会計報告
 4. 「分担金」の値上げについての試案
 5. 講習会「チラシ」の作成
 1)幼稚園 2)小学校 3)中・高校
 6. 事務局移転の実行計画

常務理事会の審議内容については、紙面の関係でくわしく述べる事ができなかったが、毎回浅田理事長を中心に、組織の活性化と事業内容の充実を当面の課題として、熱っぽく、密度の濃い審議を重ね、運営の方針を打ち出し、それにそ沿って各会議や事業を行ってきたことを補足し報告とする。

2 平成4年度 講習会・研修会及び全国大会の日程



常務理事 岡野伊与次

- (1) 第22回全国学校体育実技研修会
 幼稚園・保育園の部
 ・日程・場所
 平成4年7月25日(土)・26日(日)
 台東区黒門小学校体育館
 ・テーマ
 一人ひとりの幼児を生かす楽しい運動あそびの指導と講義
- (2) 第22回全国学校体育実技研修会
 小学校の部
 ・日程・場所
 平成4年8月3日(月)・4日(火)
 東京都内小学校体育館及び校庭
 ・テーマ
 心身の発達の特性との関連から運動の特性を明確にし、児童がめあてをもって主体的に取り組む体育学習

おかのいよじ 1924年、茨城県生。
 東京第一師範卒、都立小学校教諭、新宿区教育指導主事を経て、公立小学校校長、都小体研会長後、退職。
 現在、埼玉短期大講師その他、共著「新しい運動会のくふう」「あそびと運動」その他。

- (3) 第2回全国中学校・高等学校保健体育実技研修会
 ・日程・場所
 平成4年6月6日(土)
 都内中学校体育館
 ・テーマ
 ジャズダンスと創作ダンスの指導法
 武道の指導法
- (4) 第31回全国学校体育研究大会
 ・日程・場所
 平成4年11月5日(木)・6日(金)
 静岡市民文化会館
 ・テーマ
 生涯体育・スポーツの基礎を培い、心身ともに健康で活力に満ちた幼児・児童・生徒を育成する学校体育の在り方

3 平成4年度 事務連絡についてお願い

事務局 今泉 香代子

学体連事務局の仕事を担当してから、約1年になり、会的全貌とまではいきませんが、事業内容なども大体分かってまいりました。会の運営が少しでも合理的に進みますよう、ご協力をお願いしたいと思います。
 (1) 平成4年度の全国理事・評議員会は5月下旬に予定しております(文部省への報告書提出が6月になっております)ので、平成4年度の理事・評議員及び会長・事務局長など役員の方々の氏名・勤務校・自宅・電話番号などは5月9日まで(必着)に本部事務局宛お知らせ願います。なお、報告して頂く書式は例年のものと同じです。
 (2) この一年、事務局で一番苦労しました事は、県によっては事務局が決まらず、書類送付が思うように流れなくて困りました。次期会長が決定されるまでの間、前事務局に書類を送付いたしますの

で、連絡・取次ぎ方よろしくご配慮の程お願いいたします。新事務局が決まり次第、速やかにお知らせ下さい。
 (3) 表彰研究資料集の申込みの件・集金等につきまして、昨年は振込みチェックで大変苦労しました。平成4年度 静岡大会のおりには、優良校・功労者共に10月20日を納入締切りといたしますので、ご協力下さるようお願いいたします。なお、本年度より郵便振込(振込用紙送付)にてお願いいたします。
 (4) 各県よりの分担金納入お願いのおりには、必ず県名を入れてご送金下さいませよう重ねてお願いいたします。(例 ミヤザキケン ガクタイ)
 (5) 事務局の連絡は事務局職員が常時いるとは限りませんので、FAXをご利用ください。
 FAX番号(03-3465-7464)

平成3年度 役員・理事・評議員一覧表

H3.8.15現在
(財)日本学校体育研究会

Table with columns: 担当職務, 氏名, 現職・職名, 電話, 担当職務, 氏名, 現職・職名, 電話. Lists board members and their contact information.

Main table listing school members by prefecture (No. 都道府県名, 理事氏名, 現職・職名, 電話, 評議員氏名, 現職・職名, 電話). Includes a summary row at the bottom with counts for each region.

資料

業務改善のための予備的調査結果(平成3年9月調)

No.1

Large table for survey results with columns: 項目, 小項目, 地区, 1. 分相金の出所について, 2. 分相金の交付申請書の提出について, 3. 補助金交付のしかたについて. Includes a summary row at the bottom.

注1. 単位は理事・評議員を1名集計
注2. 各はれ数2位(4)位(5)位(6)位
注3. その他の項の箇条書は、できるだけ類似の内容ごとにし

No.2

| 項目 | 4. 本部で行う理事・評議員会のもちかた —中央研修会といたった研究会と抱合せて 出張費扱いとすることについて— | | | | 5. 学体研(県)の事務局(県)の事務局を県当局にお願いくることについて | | | |
|------------------|--|--------|--------|---|--------------------------------------|---------|--------|---|
| | 1) 賛成 | 2) 不賛成 | 3) その他 | 理由 | 1) 県当局に | 2) 会長校に | 3) その他 | 4) 連絡場所を県当局にお願いくることについて |
| 小項目 地区 | | | | | | | | |
| 北海道、東北地区 | 5 | 3 | 1 | ・評議員は大学の教官のために望めない ・旅費制限あり | 1 | 1 | 7 | ・県当局にあってほしい ・担当者が変わることに関係あり ・道教委と本部との連絡はない ・外郭団体が外へ出てきてしまっただ ・県の事情で一気に移すことは不可 ・都道府県体育連会長会議の検討 |
| 理事(2) 評議員(8) | 16 | 0 | 3 | ・よくわからなない | 7 | 6 | 4 | ・県当局に移すことは困難(3) ・県当局に移す必要あり(3) ・本部→県当局→各学校のルールがほしい ・各県教委体育課に学体研を扱う担当者があり、事務連絡ができればよい ・現状は(1)→(4)→高→小交代 ・事務局を移す必要はない。県教委理由でよい |
| 関東、甲信地区 | 7 | 3 | 1 | ・県教委委員会に事務局あり、研究会はするが 出張には不可 ・出張費は本部負担とするのが当然である ・県学体連が自己財源に求めるべきだ | 2 | 3 | 5 | ・県当局においてある ・会長が変わっても事務局は本部から依頼してほしい(3) ・県当局に移す必要はない(2) ・本部と文部省とのパイプを強化し、各県の組織間に関文部省の介入折衝が必要 ・学体研は任意団体であり、行政とは切り離して考えるべきだ |
| 理事(3) 評議員(14) | 6 | 4 | 2 | ・会の発展で行うべし ・全国大会で会を持っては 出張の手算がない ・本部から事務局所在の固定化を呼びかけて もらいたい | 10 | 0 | 0 | ・本部から各県体育連会長へ事務局設置又は担当者依頼すべきである ・県当局へ事務局をおくことは大へん連絡上よい。学体研発展にもなると考える。 |
| 近畿地区 | 3 | 2 | 0 | ・同好の士が環まり研究する以上、自分で出す が本筋である ・県当局の援助は全く考えられない | 3 | 0 | 2 | ・県当局に移すことは考えられない ・本部として前に進まざるに各県を指導すること ・本部が積極的に苦しいとはわかってるが、そのついで各県にもおんぶするのはどうか？ |
| 理事(1) 評議員(4) | 4 | 2 | 0 | | 1 | 2 | 4 | ・県に移すことは不可 ・本部は個人の都合をどこに送っているのか ・県に移すことは不可 |
| 四国地区 | 5 | 0 | 0 | | 0 | 3 | 2 | ・平成3年度より県から現職へ移った。今更移動するのは不可(3) ・事務局へ送ってほしい |
| 理事(2) 評議員(5) | 計 | 46 | 14 | 7 | 計 | 24 | 15 | 24 |
| 九州地区 | % | (68.7) | (20.8) | (10.4) | % | (33.0) | (23.8) | (33.8) |
| 理事(2) 評議員(5) | 合計67 | 合計63 | 合計63 | 合計63 | 合計63 | 合計63 | 合計63 | 合計63 |

祝

卒業・就職・入学

祝いの木

をどうぞ!

181
 東京都三鷹市大沢2-10-4

箕輪園

 箕輪 尚文

TEL (0422) 31-1761
 FAX (0422) 31-1729

ミリオンパワーのすすめ

私は15歳ごろからニンニクを食べておりました。
しかし臭いがあるものですから、何時の間にかニンニクから
遠ざかっていました。ところが、年を取ると冷え症になり、
そこでミリオンパワーを試してみたところ、
体の調子がとても良くなってきたのです。
結論としては、ニンニクの臭いが消されたというだけでも
すばらしいことです。
祝福すべきはニンニク無臭化の実現。科学の成果です。

筑波大学元副学長(研究担当・医療担当・施設担当)
国立特殊教育総合研究所元所長 大石 三四郎

学校でまとめてお申し込み頂ければ割引価格にて購入できます。

詳しくは、TEL 048(649)0511 ミリオン株式会社までどうぞ。

新・栄養源。

ミリオンパワー®



無臭ニンニク

3g×120袋 7,500円(税別)

財団法人 日本学校体育研究連合会 特別賛助会員

総発売元 ミリオン株式会社 〒331 大宮市桜木町1丁目12番5号